

安全データシート

発行日：2021.06.21
改訂日：2022.05.10

SDS番号：NIRM-073J
版番号：02

1. 化学品及び会社情報

製品名	インクリボン 白 85M / RC-TU85W
製品コード	5080C001
供給者の会社名称	キヤノンマーケティングジャパン株式会社
住所	〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6
担当部門	製品安全推進担当
電話番号	03-6719-9729
製造者	キヤノンファインテックニスカ株式会社 〒341-8527 埼玉県三郷市中央1丁目14番地1
推奨用途及び使用上の制限	プリンタ用インクリボン (インク型名：TTM-546W)

2. 危険有害性の要約

GHS分類 区分に該当しない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	なし

GHS分類に関係しない又は
GHSで扱われない他の危険有害性 なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 混合物

成分

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲 (重量%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS番号
酸化チタン	25	1-558 (化審法)	13463-67-7
シリカ	1	1-548 (化審法)	7631-86-9
酸化亜鉛	<1	1-561 (化審法)	1314-13-2
その他着色剤	営業機密	営業機密	営業機密
樹脂	営業機密	営業機密	営業機密
添加剤	営業機密	営業機密	営業機密
ワックス	営業機密	営業機密	営業機密
ポリエチレンテレフタレートフィルム	営業機密	営業機密	営業機密

4. 応急措置

吸入した場合	気分が悪くなった場合は、新鮮な空気のところへ移動する。 もし、症状が悪化、持続するようであれば、医師の診察を受ける。
皮膚に付着した場合	ゆっくりと付着物を剥がし、水で洗い流す。 刺激が残る様であれば、医師の診察を受ける。
眼に入った場合	直ちに大量の水ですすぎ流す。 痛みや刺激が持続する様であれば、医師の診察を受ける。
飲み込んだ場合	水で口の中をうがいし、直ちに医師の診察を受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	
吸入	通常の使用条件下では悪影響は予測されない。
皮膚	通常の使用条件下では悪影響は予測されない。
眼	通常の使用条件下では悪影響は予測されない。
経口	通常の使用条件下では悪影響は予測されない。
応急措置をする者の保護及び 医師に対する特別な注意事項	特になし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	二酸化炭素、水、泡消火剤、粉末消火剤
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	特になし
消火活動を行う者の特別な保護具 及び予防措置	消火作業の際には必要に応じ保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	7項と8項に示す安全対策を考慮に入れること。
環境に対する注意事項	誤ってほどけたリボンで巻戻すことができなかったものや、使用後のリボンは、環境中に放置せず回収して廃棄すること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	誤ってリボンがほどけた場合には巻き戻すこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	必要に応じて保護手袋を着用すること。
安全取扱注意事項	体内への摂取を避けること。取り扱い後は良く手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	直射日光、水、高温、高湿度、屋外保管を避けること。火や熱源から遠ざけること。
安全な容器包装材料	適用外(本製品は他の容器、包装へ移し替えて保管することは意図されていない)

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

製品

製品名	労働安全衛生法 管理濃度	日本産業衛生学会 許容濃度 (2021年版)	ACGIH TLV (2021年版)
プリンタ用インクリボン	設定なし	設定なし	設定なし

成分

化学名	労働安全衛生法 管理濃度	日本産業衛生学会 許容濃度 (2021年版)	ACGIH TLV (2021年版)
二酸化チタン (酸化チタン)	設定なし	第2種粉塵： 1 mg/m ³ (吸入性粉塵) 4 mg/m ³ (総粉塵)	TWA: 10 mg/m ³
酸化亜鉛	設定なし	第2種粉塵： 1 mg/m ³ (吸入性粉塵) 4 mg/m ³ (総粉塵)	TWA: 2 mg/m ³ (respirable fraction) STEL: 10 mg/m ³ (respirable fraction)

設備対策

通常の取り扱いにおいては必要としない。

保護具

呼吸用保護具	不要
手の保護具	必要に応じて保護手袋を着用すること
眼の保護具	不要
皮膚及び身体の保護具	不要

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	フィルム状 (固体)
色	白
臭い	無臭
融点・凝固点 (°C)	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲 (°C)	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点 (°C)	150°C以上
自然発火点 (°C)	データなし
分解温度 (°C)	データなし
pH	データなし
動粘性率 (mm ² /s)	データなし
溶解度	
水溶性	不溶
脂溶性	データなし
n-オクタノール/水分配係数 (log値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	データなし
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	該当しない
その他のデータ	なし

10. 安定性及び反応性

反応性	通常の取り扱い条件においては安定であり、反応は起こらない。
化学的安定性	通常の取り扱い条件においては安定。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	高温、高湿度、直射日光
混触危険物質	酸、塩基、酸化剤、還元剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物

11. 有害性情報

急性毒性	データなし
皮膚腐食性／皮膚刺激性	ウサギにおける皮膚刺激性試験：刺激性なし（OECD No. 404 参考）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性	モルモットにおける皮膚感作性試験：皮膚感作性なし（OECD No. 406、Buehler Test）
生殖細胞変異原性	Ames試験：陰性
発がん性	酸化チタンは、IARC（国際がん研究機関）によりグループ2B（人に対する発がん性の可能性あり）に分類されているが、本製品の通常の取り扱いにおいて、酸化チタンを含有する粉塵が放出されることはない。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データなし
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	データなし
その他の情報	なし

12. 環境影響情報

生態毒性	魚類（ヒメダカ）：96hr-LL50 > 100 mg/L（OECD 203 参考） 甲殻類（オオミジンコ）：48hr-EL50 > 100 mg/L（OECD 202 参考） 藻類（ムレミカズキモ）：72hr-ErL50 > 100 mg/L（OECD 201 参考） 72hr-NOELRr = 100 mg/L（OECD 201 参考）
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
他の有害影響	データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

当該法規（国・都道府県及び地方の法規・条例）に従って廃棄処理を行うこと。
外部に委託する場合は、内容を明確にした上で、産業廃棄物処理業者に処理を委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	該当しない
品名（国連輸送名）	該当しない
国連分類	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
特別な注意事項	
MARPOL 73/78付属書II及び IBCコードによるばら積み輸送され る液体物質	該当しない

国内規制がある場合の規制情報

陸上規制情報	該当しない
海上規制情報	該当しない
航空規制情報	該当しない

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

労働安全衛生法

名称等を表示/通知すべき危険物及び有害物	酸化チタン（施行令 別表第9の191） 酸化亜鉛（施行令 別表第9の188）
----------------------	---

化学物質排出把握管理促進法（化管法）

第一種/第二種指定化学物質	該当しない
---------------	-------

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物	該当しない
--------	-------

消防法

危険物及び指定可燃物	指定可燃物：可燃性固体類
------------	--------------

16. その他の情報

参照規格

本安全データシート（SDS）は、JIS Z 7253：2019（GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS））に準じたものである。

また、GHS分類はJIS Z 7252：2019（GHSに基づく化学品の分類方法）に従っている。

引用文献

- 労働安全衛生法 管理濃度
- 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告
- 米国 産業衛生専門家会議（ACGIH），Threshold Limit Values for Chemical Substances and Physical Agents and Biological Exposure Indices
- 世界保健機構（WHO）国際がん研究機関（IARC），IARC Monographs on the Evaluation on the Carcinogenic Risk of Chemicals to Humans

略語

- 化審法：化学物質の審査および製造等の規制に関する法律
- 安衛法：労働安全衛生法
- 化学物質排出把握管理促進法（化管法）：特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律
- GHS：Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals（化学品の分類及び表示に関する世界調和システム）
- ACGIH TLV：American Conference of Governmental Industrial Hygienists Threshold Limit Values（米国 産業衛生専門家会議 許容濃度値）
- TWA：Time Weighted Average（時間加重平均）
- JIS：Japanese Industrial Standards（日本産業規格）

本安全データシート（SDS）の記載内容は、現時点で入手できた情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険有害性等の情報については、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学製品には未知の有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。また、新しい知見が得られた場合には予告なくSDSを改訂することがありますのでご了承下さい。